

令和7年度 綾瀬市立城山中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針		(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標		学校経営の方針
自立する生徒 ～ イメージ豊かに創造しよう ～ ・意欲を持って学習する人 ・正義を重んじる人 ・共に生きる人		安全・安心で、生徒が主体的に活動する学校づくりに努める ○ 地域社会の未来を担う、「自立する生徒」の育成を図る ○ 授業改善を推進し、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図る ○ 家庭や地域との連携を図る
今年度の重点目標		
◎ 自他を大切にできる豊かな人間関係を築かせる ○ 自ら学び、考え、表現できる力を身につけさせる ○ 基本的な生活習慣を身につけさせる		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「意欲を持って学習する人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	今年度は、生徒、教職員が8割以上、保護者の約7割5分から「授業に意欲的に取り組んでいる」と評価を得ました。しかし、生徒・教職員の約2割、保護者の約2割5分となる「授業に意欲的に取り組んでいない」という回答を注視しなければなりません。教職員がさらに、授業改善への意識を高め、生徒が主体的・対話的で深い学びができる授業づくりを目指し、確かな学力の向上に努めていきます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	今年度も生徒・保護者ともに「とてもそう思う・そう思う」が9割を超える評価を得ました。とくに合唱祭では、昨年度の3学年の学年合唱の実施に加え、今年度より2学年の学年合唱も復活し、生徒自身の学校行事への取組に対する充実感が現れたと捉えます。また、綾瀬市全体で熱中症による影響などの生徒の健康面・安全面を第一に考え、体育祭と合唱祭の時期を入れ替えて実施しました。今後も生徒が主体となり「生きる力を育むこと」を目指した学校行事や生徒会活動、部活動を実施していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「共に生きる人」を育てる指導を積極的に行っている。	集計結果から、今年度も生徒、保護者ともに「人に対してやさしく接していると思う」という評価が9割を超えました。しかし「そう思っていない」と回答する生徒も1割いることから、今後も学校全体が「やさしさ」で溢れるよう、掲示物の工夫、ソーシャルスキルトレーニングや道徳教育の充実、さらに効果的に協働的な学習を取り入れるなど、様々な取組を実践していきます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	9割の生徒が肯定的な回答をしています。しかし、1割の生徒は「学校生活を楽しく送っていると思わない」と感じており、月末にスクールアンケートを活用し、生徒からの小さな情報にも聞き取りを行うなど未然に察知できるよう努めます。また、特活などにおいてソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターなどの人間関係づくりも実施し、生徒が楽しみながら人間関係を広げられるよう指導を行っています。さらに、スクールカウンセラーとの連携を密にし、生徒の不安の解消や緩和だけではなく、全生徒が安心して学校生活を送れるよう努めます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	保護者の回答について、肯定的な回答は7割以上あるものの、肯定的でない回答も全体の約4分の1ありました。いじめの早期発見・再発防止のため、予防的生徒指導のさらなる工夫を検討します。今後も、迅速且つ適切な指導を実践するとともに、人権教育を更に充実するなど、すべての生徒が学校生活を安全・安心に送れるよう、学校全体で取り組んでいきます。
6 保健管理	学校は、「健康な心と身体を育む」指導に積極的に取り組んでいる。	昨年度同様に、生徒、保護者ともに健康や体力に関心をもって生活していると感じていることがわかります。また、教職員も生徒の心と体の健康に留意した教育活動を行っています。今後も学校では、生徒が正しい知識を身につけられるように、食育・保健教育を行うだけではなく、専門の講師の方による講演会等を実施していきます。また、生徒が自身の健康や体力に関して高い関心をもち続けられるように、家庭と連携しながら心と体の健康についての教育に取り組んでいきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	施設の点検を含めて、教職員は日頃から各学年ごとに授業前の見回りを実施しています。今後も、日常的に不審物等がないかや施設に修繕が必要な箇所がないかなどを確認していきます。また、災害に関する学習については、身を守るためにどうしたらよいかを考え、実践できるような学習となるように工夫します。さらに、生徒の安全のために、避難訓練がより実践的な訓練となるように見直しを行いながら実施していきます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	教職員の支援体制づくりに対する意識の高さが結果に表れています。今後も、さまざまな場面での情報共有を密にし、適切な支援ができるよう、工夫をしていきます。また、指導の統一を図り、差異のない指導を意識します。その上で、生徒がよりよい学校生活を送れるよう、教職員と生徒との信頼関係づくりに努めます。今後、さらに生徒理解を一層深め、生徒一人ひとりを尊重した支援体制を整えていきたいと思えます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	集計結果から、9割以上の教職員が肯定的な回答をしています。このことは、校長の学校経営方針のもと、各グループが総括教諭を中心に円滑な活動を行ってきたことのアラわれだと考えられます。来年度も凡事徹底を意識し、「チーム城山中学校」として職務にあたりたいと考えます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	チーム別で授業研究を行うことで、その過程をとおして公開授業の担当だけでなく、職員全体の授業改善につながりました。今年度の取組の中で授業改善に向けた様々な実践をすることができたので、有効なものを精選して継続していきます。一方で、昨年度よりも校内研究に積極的に取り組んでいないと感じている職員がアンケートの結果から増えています。公開授業を行うにあたって、授業者以外も関わりやすいような体制づくりが今後の課題となります。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	アンケート結果から、昨年度と比べ、保護者の「とてもそう思う・そう思う」が共に増加しました。しかし、保護者の「あまり思わない」と感じている回答も2割弱ある現状に目を向けなければなりません。今後も学校教育目標である「自立する生徒」の育成に向け、生徒が一人ひとりが主体的な活動を行えるように支援を行うとともに、校内研究の推進や、教職員間・家庭との連携を密にするなど、学校全体で取り組んでいきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者からの肯定的な回答が、昨年度に比べて増加し、8割近くを得ています。これは、デジタル連絡ツール(C4th)に加え、学校と家庭が情報共有に努めた成果であると考えられます。しかし、一方で2割程度の家庭が「あまり思わない・思わない」に回答し、教職員の「そう思う」の回答が昨年度より減っていることに課題を感じています。今後も、教職員からのアイデアや意見を募りながら、デジタル連絡ツールのさらなる活用方法を検討します。また懇談会、保護者面談などをおとし、学校と家庭との情報共有や連携をさらに充実させていく必要があります。
<b>【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】</b> ○授業力の向上について ・生徒数の減少や不登校の増加により、今後さらに学び方が多様化していくが、生徒や教職員にとって充実した教育活動が展開されることを望む。教員の働き方改革も進捗中、限られた時間の中でも校内研究をはじめとした教員の研修体制を整え、教職員が主体的に研鑽に努めてほしい。 ○いじめや不登校対策について ・学校生活を楽しく送っていると思わない生徒や、いじめの早期発見・再発防止のための取組について否定的にとらえている保護者が一定数いる状況について、その理由がきちんと把握できると、より改善にむけての取組につながっていく。アンケートの取り方等に工夫が必要である。 ・いじめについて、小さなきっかけから気づくことが必要であるため、教職員は日々の生徒の様子を見逃さないでほしい。 ・生徒が安全で安心して学校生活を送れるように、今後も保護者と連携して信頼関係の構築に努めていきたい。 ○保護者との連携について ・保護者との連絡手段については、従来どおりの紙のたよりだけではなく、「C4th」といったデジタルツールを活用できおり、保護者からの肯定的な回答が昨年と比べて増加している。しかし、学校と家庭との情報共有や連携がますます必要となってきたため、デジタル連絡ツールのさらなる活用方法を検討する。 ・今年度より校内で地域の情報掲示板を作成したが、うまく活用できなかった。そのため、学区内にある自治会のうち、まずは早川自治会からの情報を発信できるように働きかけていきたい。		
※今回の結果や、いただいた意見を教職員で共有し、来年度につなげていく。		